

平成 2 7 年 度

# 事 業 計 画 書

公益財団法人 東京動物園協会



# 目 次

第1	運 営 方 針	1
第2	公 益 目 的 事 業	
	Ⅰ. 事 業 総 括	2
	〔1〕 総 事 業 費	2
	〔2〕 管理施設の概要と運営方針及び主な事業計画	2
	Ⅱ. 事 業 計 画	5
	〔1〕 動 物 管 理 事 業	5
	〔2〕 野 生 生 物 保 全 事 業	7
	〔3〕 教 育 普 及 事 業	8
	〔4〕 受 託 業 務	11
	〔5〕 市 民 ・ 団 体 と の 協 働 事 業	12
	〔6〕 危 機 管 理 対 策	13
	Ⅲ. 各園の主な展示及び施設	14
	〔1〕 恩 賜 上 野 動 物 園	14
	〔2〕 多 摩 動 物 公 園	15
	〔3〕 葛 西 臨 海 水 族 園	17
	〔4〕 井 の 頭 自 然 文 化 園	18
第3	収 益 事 業	
	Ⅰ. 事 業 総 括	20
	Ⅱ. 事 業 計 画	21
	〔1〕 便 益 施 設 の 経 営	21
	〔2〕 そ の 他 の 事 業	22
第4	収 支 予 算 概 要	23
第5	協 会 の 機 構	24



# 第1 運 営 方 針

平成 27 年度は、現指定管理期間の最終年度となるため、次期の指定管理者に向けて、より一層効率的・効果的な施設運営・事業展開を進めるとともに、引き続き公益財団法人としてのメリットを最大限に活かしつつ、都立動物園・水族園 4 園一体で、以下の 3 点を基軸として、事業運営に取り組んでいく。

第 1 に、「都立動物園マスタープラン」を具体化する取組や昨年末に公表された「東京都長期ビジョン」に掲げる生物多様性保全の拠点としての役割を着実に果たしていくとともに、大学や研究機関及び学校教育等との一層の連携を進め、環境学習機能の強化を図る。

また、東京都が行う施設の再整備に際しては適切に対応し、快適な観覧環境の確保に努める。

第 2 に、冬季の閑散期対策としての“Visit ほっと Zoo”や夏季の夜間開園など、魅力的な企画を実施し、来園者の確保に努めていく。また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催も視野に入れて、外国人来園者の増加に対応した外国語表記の充実や語学・接客研修を進め、東京都が目指す「世界の都市・東京」に相応しい“おもてなし”を実践する。

第 3 に、これまで進めてきた災害時対応訓練や安否確認システムの導入、職員向け備蓄品の確保など、協会独自の「事業継続計画 (BCP)」に基づく取組を一層発展させ、危機管理能力の更なる向上を図る。

各事業における今年度の主な取組事項は、以下のとおりである。

事業区分	主な取組事項
公益目的事業	(1) 飼育・繁殖技術の一層の向上による生物多様性保全の拠点としての役割の実践と魅力的な展示改善の実施 (2) 多様なプログラムによる幅広い教育普及活動の推進 (3) 事業継続計画に基づく防災対策の充実 (4) 安全・安心で快適な園内施設の維持管理と、質の高い接客サービスの提供 (5) 外国人観光客にも配慮した観覧環境づくりと、「第三の学芸員」として各職員による動物や動物園の情報・魅力を積極的に発信 (6) 移動水族館車の本格稼働をはじめ今後の施設改修も視野に入れた新たな展示への着実な対応
収益事業	(1) 季節・催事や展示と連動した魅力的な商品の開発と、品質管理や衛生管理の徹底 (2) 接客研修・語学研修等による接客能力の向上

## 第2 公益目的事業

都立動物園・水族園4園（恩賜上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園）の指定管理者として管理運営を行うとともに、収益事業からの繰入金等も一体的に活用して、特色ある教育普及活動と市民・団体との協働による事業を実施する。

### I. 事業総括

#### 〔1〕 総事業費

公益目的事業費	5,647,918千円
---------	-------------

#### 〔2〕 管理施設の概要と運営方針及び主な事業計画

##### 1. 恩賜上野動物園

所在地	台東区上野公園、池之端三丁目
開園面積	142,897.89㎡
運営方針	日本を代表する総合動物園として、動物と動物園について多様な情報を国内外に発信する。 ①いきいきとした動物の生態と行動を見せる展示 ②国内外の動物園ネットワークの強化 ③外国人観光客の積極的な誘致
主な事業計画	<b>【飼育・繁殖】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・これまでの飼育経験を活かしたジャイアントパンダ繁殖への取組</li><li>・新子ども動物園整備に向けた動物展示計画の推進</li><li>・飼育管理における動物の馴致トレーニングの拡充</li><li>・国内ホッキョクグマ繁殖計画への積極的参画</li><li>・園内再整備工事に対応した、飼育動物の円滑な再配置</li></ul> <b>【保全活動】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・アカガシラカラスバト、ルリカケス等の域外保全の取組の推進</li><li>・環境省のニホンライチョウ保護増殖計画への協力</li></ul> <b>【教育普及・研究活動】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・飼育の知見に基づく科学的、かつわかりやすい講演会やシンポジウムの実施</li><li>・外部研究機関やNPO等との連携による効果的な環境教育プログラムの作成</li><li>・協定締結大学等をはじめとした学校教育との連携の推進</li><li>・各種イベントに関するテーマ・デザインを通年で統一して展開</li></ul>

	<p><b>【維持管理・園内サービス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再整備工事期間中に於ける快適観覧環境の確保</li> <li>・パンダの残餌である笹竹を利用したパンダペーパーによるエコPR活動の推進</li> </ul>
--	--

## 2. 多摩動物公園

所在地	日野市程久保六丁目、七丁目、南平八丁目
開園面積	601,372.54㎡（うち無料開園区域77,508.22㎡）
運営方針	<p>丘陵地の自然を生かして生態展示を行うとともに、自然度の高い動物公園として充実させる。また、都立動物園における野生生物保全活動の拠点とする。</p> <p>①生態的展示・群れ展示の推進</p> <p>②環境教育機能の充実</p> <p>③国内外の関係機関と連携した野生生物保全活動の推進</p>
主な事業計画	<p><b>【飼育・繁殖】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防護壁（PCウォール）を用いたゾウの準間接飼育管理体制の構築</li> <li>・アムールトラ、レッサーパンダ、モウコノウマ等の国際的な繁殖計画への参画</li> <li>・新アジアゾウ舎建設等の整備に対応した動物の移動トレーニングの実施</li> </ul> <p><b>【保全活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トキの継続的な繁殖や、一般公開に向けた具体的な展示手法の検討</li> <li>・関東地区自治体等によるコウノトリ保全事業へのリーダーシップの発揮</li> <li>・オガサワラシジミの飼育下繁殖技術（飼育下における交尾）の開発</li> </ul> <p><b>【教育普及・研究活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物情報の戦略的な広報など効果的なPR活動の展開</li> <li>・自然保護団体等と連携した企画展やプログラムの充実</li> <li>・園内の自然を対象にした観察会（ホタル、カエル、野鳥等）の開催</li> <li>・協定締結大学等をはじめとした学校教育との連携の推進</li> <li>・動物解説に関する新規プログラムの開発</li> </ul> <p><b>【維持管理・園内サービス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・再整備工事期間中に於ける快適観覧環境の確保</li> <li>・手話講習の実施による、お客様とのコミュニケーションのバリアフリー化</li> </ul>

## 3. 葛西臨海水族園

所在地	江戸川区臨海町六丁目
開園面積	85,958.90㎡
運営方針	<p>世界の海や東京の海の生物を飼育展示し、「海と人との交流の場」とする。</p> <p>①水生生物の展示の充実</p> <p>②教育機能の充実</p> <p>③快適で魅力的な空間の創出</p>
主な事業計画	<p><b>【飼育・繁殖】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルに向けた採集や輸送、飼育の新たな取組</li> <li>・新規採集地の開拓および展示開発</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水辺の自然「池沼」や世界の海「南米チリ水槽」の展示充実への取組</li> <li>・クラゲ類の展示充実と累代飼育の安定化</li> <li>・東京産両生類の繁殖技術確立及び累代飼育の安定化</li> </ul> <p><b>【保全活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・他機関と連携したイモリやトビハゼの調査、保全と普及啓発の実施</li> <li>・ミナミメダカ、ゼニタナゴ、タツノオトシゴ類、ペンギン類の保全への取組</li> </ul> <p><b>【教育普及・研究活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動水族館事業の本格稼動</li> <li>・幼児向けプログラムや環境教育プログラムの開発実施</li> <li>・東京の海をテーマにしたフィールドプログラムの開発実施</li> <li>・協定締結大学等をはじめとした学校教育との連携の推進</li> </ul> <p><b>【維持管理・園内サービス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心な施設設備の維持管理による快適環境づくり</li> </ul>
--	--

#### 4. 井の頭自然文化園

所在地	武蔵野市御殿山一丁目、三鷹市井の頭四丁目
開園面積	115,500.00㎡
運営方針	<p>幼児から高齢者までゆったりとくつろげる動物園として、日本産動物を中心に、飼育・展示・繁殖を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①日本産動物の展示と身近な動物とふれあえる体験機能の強化</li> <li>②子どもたちが楽しみながら学べる場の提供</li> <li>③園内の文化施設を活用した各種催し物の開催</li> </ul>
主な事業計画	<p><b>【飼育・繁殖】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本産動物を中心にその生息環境がイメージできる飼育展示展開</li> <li>・保護された小型鳥類の飼育繁殖推進</li> <li>・日本産水禽類の展示充実と飼育繁殖の推進</li> <li>・日本産水生生物（ホタル、カワネズミ等）の調査と飼育展示への取組</li> </ul> <p><b>【保全活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、機関と連携したイモリ、ホタル等の調査・保全・普及啓発の実施</li> <li>・大学と連携したツシマヤマネコの飼育下繁殖の研究</li> <li>・水辺のいきものの保全をテーマとした企画展の実施</li> </ul> <p><b>【教育普及・研究活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い来園者が楽しみながら学べる企画展等の実施</li> <li>・動物の福祉に配慮したテンジクネズミ等によるふれあい活動の展開</li> <li>・彫刻園・童心居を活用したイベントや園内の植物みどころ紹介等による自然文化園としての魅力発信</li> <li>・協定締結大学等をはじめとした学校教育との連携の推進</li> </ul> <p><b>【維持管理・園内サービス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティ溢れる接遇の推進と研修実施</li> </ul>

## Ⅱ. 事業計画

### 〔1〕 動物管理事業

展示動物を適切に飼育管理し、動物の特性を引き出す展示の工夫を行うとともに、快適な観覧環境を提供し、より魅力的な動物園・水族園の実現を図る。

業務区分	内 容
1. 展示動物の収集・管理	<p>魅力的な展示を行うための展示計画を策定し、国内外の関係機関と連携して収集を行うほか、血統の登録管理や動物園間の動物の交換、貸借の調整、飼料の調達等を行う。また都立動物園マスタープランに基づくリニューアルに備え、計画的に動物収集を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 展示計画の策定</li><li>(2) 動物の収集、移動・交換・貸借<ul style="list-style-type: none"><li>・動物収集連絡会議を都と連携して開催</li><li>・ブリーディングローン等による希少種保全</li><li>・国内外の関係機関と連携した動物収集</li></ul></li><li>(3) 動物管理<ul style="list-style-type: none"><li>・動物台帳管理</li><li>・国際種情報システム機構（ISIS）による血統管理、登録事務</li></ul></li><li>(4) 動物飼料に関する事務</li></ul>
2. 飼育展示・調査研究	<p>動物の健康と飼育環境管理を適切に行い繁殖に努めるとともに、創意工夫により動物の魅力や特性を引き出すための展示改善を推進する。また、飼育展示を通じて得られた野生動物に関する研究成果等について、研究会や出版物等で積極的に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 日常飼育・展示業務<ul style="list-style-type: none"><li>・動物の健康及び飼育環境管理</li><li>・飼育動物の繁殖</li><li>・飼育技術の継承と向上</li><li>・展示改善</li><li>・飼育記録作成及び飼育情報提供</li><li>・動物脱出等の事故防止</li></ul></li><li>(2) 調査研究<ul style="list-style-type: none"><li>・大学や研究機関との共同研究</li><li>・国内外の会議への参加や、研究会等での研究成果の発表</li></ul></li></ul>

業務区分	内 容
3. 動物病院業務	<p>飼育職員と連携して病気等の予防策を講じ、異常の早期発見に努め、適切な治療を行う。また、検疫や感染症対策等の関連業務を行う。</p> <p>(1) 日常診療、予防業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育と連携した病気等の予防及び異常の早期発見</li> <li>・動物の診療、治療</li> <li>・感染症対策等の安全確保</li> </ul> <p>(2) 検疫業務、病理解剖、検体保存</p> <p>(3) 獣医技術に関する調査研究</p> <p>(4) 医療器材・器具及び医薬品管理</p> <p>(5) 人工繁殖・人工保育に関する業務</p>
4. 施設維持管理・園内サービス	<p>来園者の安全を確保し快適な観覧環境を提供するため、動物舎等の施設や設備を適切に維持管理するとともに、巡回警備による整理・誘導、園内清掃及び廃棄物搬出、入園券の売改札、案内所等での利用案内等を行う。</p> <p>(1) 園内施設・設備の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物舎、園路広場、園内施設等の各種施設の維持管理</li> <li>・電気、機械、昇降機、空調、飼育用循環水設備等、各種設備の保守・維持補修、自家用電気工作物管理</li> <li>・樹木、株物、地被植物、樹林地等の維持管理</li> </ul> <p>(2) 園内の保安及び環境美化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回警備による入園者の整理・誘導</li> <li>・来園者に対する利用案内</li> <li>・園内清掃及び廃棄物処理</li> </ul> <p>(3) 売改札及び利用案内・園内サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入園券の売改札、年間パスポートの販売</li> <li>・有料施設等の占用等の申請受付と料金徴収</li> <li>・園内利用案内、迷子相談、救急救援、園内放送</li> <li>・来園者にわかりやすい案内図やサイン等の作成</li> <li>・外国人来園者に向けた英会話および接客研修などの実施</li> <li>・外国語対応の案内サイン等の整備促進</li> <li>・「第三の学芸員」として動物情報等を提供できる飼育系以外のスタッフを育成</li> <li>・上野動物園内の広告事業による案内誘導サインの整備</li> </ul> <p>(4) 利用促進・PR活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページによる利用案内、催し物告知</li> <li>・SNS等を使った情報発信</li> <li>・学校、旅行代理店等へのダイレクトメール送付</li> </ul>

業務区分	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休園日の開園と開園時間の延長</li> <li>・ マーケティング調査</li> <li>・ 苦情・要望・意見への対応、取材対応</li> </ul>

## 〔2〕 野生生物保全事業

「野生生物保全センター」を中心に4園が連携し、野生動物生息域内外の保全活動、調査・研究及び情報収集・発信等を推進する。

業務区分	内 容
1. 生息域外保全活動	<p>絶滅の危惧があり、重点的に保全すべき種および動物群（保全対象種）を選定し、本来の生息域外にあたる動物園内において繁殖と系群保全活動を行う。</p> <p>(1) ジャイアントパンダ等の希少種を保全対象種（19種）に定めた繁殖と系群保全活動及び普及啓発</p> <p>(2) 環境省の進める保全への取組や保護増殖事業へ協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小笠原の希少生物保全業務</li> <li>・ ライチョウの域外保全に向けた取組</li> <li>・ 多摩動物公園におけるトキの分散飼育</li> <li>・ 井の頭自然文化園におけるツシマヤマネコの分散飼育</li> </ul> <p>(3) 関東自治体におけるコウノトリ保全事業への協力</p>
2. 生息域内保全活動	<p>これまでの飼育や繁殖で得られた知見や技術を希少動物の繁殖地域内での保全活動に活用していく。特に東京産の野生動物についてはより積極的に取り組む。</p> <p>(1) アカガシラカラスバトやルリカケス、コウノトリ、トビハゼなど、国内外の団体等と連携し、生息地での保全活動に協力</p> <p>(2) 都内に残されたイモリ生息地調査</p> <p>(3) 都内に生息するメダカのDNA解析に基づく生息調査</p>
3. 調査研究・生物学技術の応用	<p>繁殖に関わるバイオテクノロジーの先進技術を希少動物の保全に活用する。</p> <p>(1) DNA解析システム等を用いた調査研究の実施</p> <p>(2) 遺伝的解析による種・亜種の同定</p> <p>(3) 配偶子や体細胞の冷凍保存技術の活用</p> <p>(4) 糞及び尿中の性ホルモン濃度測定による妊娠判定や発情周期の解明 等</p>

業務区分	内 容
4. 情報収集・発信	<p>国内外の会議等へ積極的に参加し、野生生物保全に関する情報の収集・発信に努め、また内外の動物園関係者、研究者との意見交換を行う。</p> <p>(1) 各種国際会議への参加やフォーラムの開催  (2) 日本動物園水族館協会 (JAZA)、世界動物園水族館協会 (WAZA)、保全繁殖専門家グループ (CBSG) 等との連携  (3) ホームページや出版物等による情報発信</p>

### 〔3〕 教 育 普 及 事 業

動物園・水族園の役割の一つである社会教育機能をより一層発揮するため、子供から大人まで幅広い入園者を対象に、楽しみながら学べる多様なプログラムを実施するとともに、4園一体運営の強みを活かした教育普及活動を実施する。

業務区分	内 容
1. 4園連携による幅広い教育普及活動の展開	<p>4園の緊密な連携体制のもと、社会教育施設としての役割を的確に果たすため、充実した教育普及活動を展開する。</p> <p>(1) 教育機関との連携体制の充実、強化  (2) 生物保全や生物多様性をテーマにした関連情報の発信  ・講演会、企画展等  (3) ドリームナイト・アット・ザ・ズー（障害をもつ子ども達とその家族を対象とした教育普及活動）等、幅広い入園者を対象とした教育普及活動の実施  (4) 「小笠原の自然の保全」に基づく企画実施</p>
2. 園内プログラム	<p>専門の動物解説員による園内ガイドツアー、動物に関する質問・相談への対応、飼育担当者による動物解説や飼育動物とのふれあい、特設展・企画展の開催等により、動物やその生息環境の情報を伝える。</p> <p>(1) 動物解説業務  ・園内ガイドツアー、団体指導  ・クイズラリー等各種特別企画  ・ニュースレターの発行  ・教材の開発と貸出、ワークシートを活用した動物観察指導  (2) 動物相談室の運営  ・動物相談室の専門スタッフが一般からの質問に対応（上野・多摩）</p>

業務区分	内 容
	<p>(3) 通年プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィーディングタイム、キーパーズトーク</li> <li>・ふれあいコーナー</li> <li>・スポットガイド</li> </ul> <p>(4) 企画プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開園記念日、飼育の日、国際博物館の日等催し物</li> <li>・動物愛護週間行事</li> <li>・園内観察会</li> <li>・映画、ビデオ上映等</li> </ul> <p>(5) 特設展・企画展</p> <p>各園でテーマを掲げ、写真やパネル、教材等を使って展示</p>
3. 体験プログラム・フィールドプログラム	<p>自然科学への探求心、動物園や野生動物に関する知識を深めるとともに、環境保全意識の向上を図ることを目的として様々なプログラムを実施する。</p> <p>(1) 体験プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サマースクール</li> <li>・フィッシュレンジャー</li> </ul> <p>(2) フィールドプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野外フィールドにおける各種観察会</li> </ul> <p>(3) 講演会・上映会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育スタッフや専門家による講演会、上映会</li> <li>・他団体との共催講演会</li> </ul>
4. 学校教育との連携	<p>学校教育との連携を深め、教員を対象とした実践的な研修会や生徒・学生等を対象とした有意義なプログラム等を実施する。</p> <p>(1) 教員研修、学校教員セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会、講座、実習、ワークショップ</li> </ul> <p>(2) 生徒・学生を対象としたプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出張授業、講師派遣</li> <li>・教師を目指す学生のための講座「東京教師養成塾」への協力</li> <li>・都立高校「奉仕の時間」受入れ</li> <li>・大学生等の実習生の受入れ及び指導</li> <li>・インターンシップ</li> </ul> <p>(3) 教材貸出、教育プログラムの開発</p>
5. 移動水族館	<p>普段、水族園に足を運ぶことができない人にも、海の生物に親しむ機会を提供し、海と海洋生物への興味、理解を深めてもらうため、移動水族館専用車を活用し、水族園外においても普及啓発活動を実施する。</p>

業務区分	内 容
	(1) 大型水槽車両による海洋生物の展示解説プログラム (2) 磯の生物とのふれあいと解説プログラム
6. 会 員 組 織 運 営	動物園・水族園の魅力を知る機会を提供するとともに、野生生物への理解を深めるため、「東京動物園友の会」（一般会員約3,000名、ジュニア会員約200名）の運営を行う。 (1) 友の会機関誌、冊子の送付 (2) 会員対象の催し物実施 ・友の会の日、動物園教室 (3) 案内パンフレット作成・配布等入会促進活動
7. 資料の収集・公開	野生動物及び動物園等に関する内外の専門書・学術雑誌等の文献や視聴覚資料を収集公開する。 (1) 定期刊行物、関係図書、視聴覚資料の収集 (2) 恩賜上野動物園資料室での資料閲覧 (3) インターネットによる図書検索システムの運用 (4) オリジナルビデオ作品の公開
8. 出 版 業 務	野生動物及び動物園等に関する情報を提供するために、機関誌や情報誌を作成し、配布する。 (1) 「どうぶつと動物園」の発行 ・季刊、A4変型判・約50頁、約4,500部、友の会会員向け ・優れた記事及び写真に対して「高碯賞」を授与 (2) 「ZOO! どーぶつえんしんぶん」の発行 ・年2回、A4判・8頁、約800部、ジュニア会員向け (3) 「マンスリーどうぶつえん」（上野） ・年10回、A4変型判・12頁、約45,000部 ・民間企業との協働による出版
9. 電子メディアによる情報発信業務	都立動物園・水族園の公式ホームページ等を通じて最新情報を発信するとともに、案内情報等を提供する。 (1) ホームページ「東京ゾーネット」の運営 ・ニュース&催し物案内、動物図鑑、鳴き声紹介 ・友の会、動物園サポーター関連情報 ・蔵書検索 (2) メールマガジン「ゾー・エクスプレス」の配信 ・電子メールにより動物園の最新情報を登録者に配信 (3) 携帯電話通信サイトの運営 ・動物園情報をPC版サイトに連動して配信 (4) 「UENO-PANDA.JP」の運営

業務区分	内 容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上野動物園のジャイアントパンダ情報サイト</li> <li>・ パンダに関するQ&amp;A、パンダムービー、ジャイアントパンダサポート基金の紹介、募金（パートナーズプレート）受付</li> <li>(5) 「うえのパンダライブ.JP」の運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジャイアントパンダのライブ映像を配信</li> </ul> </li> <li>(6) SNS等を活用した動物園最新情報の発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Twitter（ツイッター）を利用した4園及び東京ゾーネットアカウントによる最新情報発信</li> </ul> </li> </ul>
10. 映像記録資料制作	<p>飼育動物の行動記録や動物園情報、園内外の行事・催し物を撮影して写真やビデオに記録・保存し、活用する。</p> <p>(1) ビデオ映像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来園者向けニュース、各種研究発表、HPに掲載</li> <li>・ 広報発表時の映像提供（写真資料だけでは不足する場合）</li> </ul> <p>(2) 映像資料のデジタル化とデータベース化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長期保存と有効活用のため、貴重な写真・映像のデジタル化とデータベース化を推進</li> </ul>

#### 〔4〕 受 託 業 務

協会の保有する人材やノウハウを活用し、東京都や他団体からの業務を受託する。

内 容
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユビキタス運営事業受託 東京都からの委託による、恩賜上野動物園内の動物等の情報を取得できるユビキタスサービスの運営業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 携帯ガイド端末サービス運営（園内貸出、保守管理）</li> </ul> </li> <li>2. 恩賜上野動物園ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトに関わる業務受託 東京都からの委託による、都と中国野生生物保護協会の間で締結された協力協定書に基づく研究プロジェクト業務</li> <li>3. 特別天然記念物トキの健康管理及び飼育指導に係る業務受託 新潟県からの委託による、佐渡市のトキ保護センター、野生復帰ステーションにおけるトキの定期検診及び飼育指導業務</li> <li>4. 大島公園動物園動物飼育管理業務受託 東京都からの委託による、大島公園動物園の動物飼育業務</li> </ol>

## 〔5〕 市民・団体との協働事業

ボランティアやサポーター、関係団体等との協働、基金事業を行う。

業務区分	内 容
1. ボランティアとの協働	<p>園内において活動を行っているボランティアへの研修やボランティアとの協働事業を行う。</p> <p>(1) 「東京動物園ボランティアーズ」(TZV)・「東京シーライフボランティアーズ」(TSV) との協働事業と活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポットガイド等展示動物の解説や来園者案内</li> <li>・ボランティア研修会の開催</li> <li>・ニューズレター発行等の活動経費助成</li> <li>・TZV発足40周年記念誌発行への協力</li> </ul> <p>(2) 植栽、樹林地管理に関するボランティア、NPOとの協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上野動物園内の植栽、多摩動物公園内の樹林地管理活動</li> </ul>
2. サポーター事業	<p>「動物園サポーター」として登録した個人及び団体、法人等から資金的支援を得て、園内動物飼育環境の改善に資するとともに、市民の動物園事業への理解と参画意識を促進する。</p> <p>(1) サポーター制度に関する事務、登録者管理</p> <p>(2) サポーター資金による施設改善</p> <p>(3) サポーターを対象とした園内見学等の催し物（サポーターズデイ）の実施</p>
3. 関係団体との協力	<p>国内外の動物園関係団体への協力・支援を行う。</p> <p>(1) 国際自然保護連合（IUCN）への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IUCNの委員会の一つである種保存委員会（SSC）における保全繁殖専門家グループ（CBSG）への活動支援</li> </ul> <p>(2) 関係団体への協力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(公社)日本動物園水族館協会、WWF ジャパン、(公財)日本鳥類保護連盟、(公財)山階鳥類研究所ほかに加入</li> <li>・環境省他計11団体による「動物愛護週間中央行事」に協賛</li> </ul>

業務区分	内 容
4. 基金事業	<p>都民をはじめ多くの人々に、野生動物の保護やその生息環境保全についての理解を促し、集まった募金を基に野生生物の保全や保全活動を支援する事業を行う。</p> <p>(1) ジャイアントパンダ保護サポート基金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンダ保護に向けた普及啓発、飼育環境の向上、東京都と中国が協力して行うジャイアントパンダ保護繁殖事業の支援等</li> </ul> <p>(2) 東京動物園協会野生生物保全基金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野生生物の保全に積極的に取り組む個人・団体の活動を支援</li> <li>・助成対象者による活動報告会の開催</li> </ul>

## 〔6〕 危機管理対策

命を預かる職場としての責任を果たすため、来園者・職員・飼育動物の安全対策を実施し、今後起こり得る万が一の事態にも対応できるよう事業継続計画（BCP）に基づいた危機管理体制を強化し、災害等対応力の向上を図る。

内 容
<p>1. 震災等の災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業継続計画（BCP）に基づいた教育及び訓練（初動対応・参集・通信訓練等）</li> <li>・災害対応備品の充足</li> <li>・マニュアル整備</li> <li>・防災訓練</li> <li>・台風・大雨・積雪等災害時における対応、巡回点検</li> </ul> <p>2. 感染症対策（口蹄疫・高病原性鳥インフルエンザ・デングウィルス等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集</li> <li>・対策指針に沿った感染・拡大の防止</li> </ul> <p>3. 情報セキュリティ対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物理的セキュリティ強化</li> <li>・人的セキュリティ強化</li> </ul> <p>4. 事故対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・猛獣脱出対策訓練</li> <li>・事故事例の調査・分析</li> <li>・マニュアル整備</li> <li>・管理職研修・園内研修</li> </ul>

### Ⅲ. 各園の主な展示及び施設

#### 〔1〕 恩賜上野動物園

エリア名	施設名	概要（主な展示動物）
1. 東園	パンダ舎	平成22年に施設改修し、23年4月からジャイアントパンダの展示を再開。東京都と中国との共同研究プロジェクトに基づく共同研究を進めるとともに前年度の経験を活かして繁殖に取り組む。
	日本の動物	五重塔付近に鳥類を中心に日本産の動物を展示する。ライチョウの保全に向けて、亜種であるスバルバルライチョウの飼育繁殖にも取り組む。 (エゾシカ、ウグイス、ルリカケスほか)
	ゾウ舎	インド、タイから寄贈されたアジアゾウ4頭を飼育展示し、繁殖を目指す。 平成25年に放飼場に新たに設置されたプロテクテッドコンタクトウォールを活用し、準間接飼育に向けた取組を進めていく。
	サル山	昭和6年に建築、公開され、日本の動物園の「サル山」の原点となった。平成22年1月より世界最北に分布する青森県・下北半島のニホンザルの群れを展示する。
	ゴリラ・トラの住む森	それぞれの生息地に合わせ植栽や擬岩、擬木を施した環境でゴリラの生態にあわせた群れ飼育やトラ等を飼育展示する。 (ニシローランドゴリラ、スマトラトラ、インドライオンほか)
	バードハウス	室内型の鳥類飼育施設。熱帯及び温帯産の鳥類を飼育し、植栽を多く取り入れ、樹上性、地上性の鳥類を複合展示する他、野外エリアでコアリクイの展示も行う。 (マダガスカルトキ、カノコスズメ、ボウシゲラほか)
	クマたちの丘	クマの冬眠展示や、アナグマやカワウソとの同居展示等を行う。 (ヒグマ、ツキノワグマ、マレーグマほか)
	ホッキョクグマとアザラシの海	ホッキョクグマ及びアシカ・アザラシを水中からも観察できる展示とした。繁殖に向けてホッキョクグマのオス個体の導入を検討する。
2. 西園	アイアイのすむ森	マダガスカルを原産とする代表的な動物を展示する。 (アイアイ、ワオキツネザル、フォッサほか)
	カバ舎・サイ舎・キリン舎	アフリカの沼地、草原、森林に生息する草食動物を飼育展示する。コビトカバ舎ではガラス越しに水中での行動展示を行う。 (カバ、コビトカバ、クロサイ、キリン、オカピほか)
	小獣館	1階に小型の哺乳類、地階に夜行性の哺乳類を展示する。 (ハリモグラ、コモンマーモセット、ハダカデバネズミ、アルマジロ、コウモリ類ほか)
	走禽舎	走禽舎として建設されたが、現在は多様な動物を飼育展示する。 (オオカンガルー、タテガミオオカミ、オオアリクイ、ツチブタほか)
	フラミンゴ舎	平成18年に寄付金とサポーター資金を活用して建築し、繁殖に取り組む。 (ベニイロフラミンゴ)
	ハシビロコウ舎	ハシビロコウ専用の展示施設として、平成24年には新規の付属展示場が完成し、平成25年には動物舎の天井を高く改修した。国内初の繁殖を目指す。

エリア名	施設名	概要（主な展示動物）
	レッサーパンダ舎	東園で飼育展示されていたレッサーパンダを西園に移動し、動物舎内の樹木等を活用した行動展示を行う。
	繁殖センター	平成25年に完成。旧ズーストック舎に変わる非公開の保護施設。 鳥類の人工孵化・育雛施設を合わせ持ち、希少野生動物の保護・増殖を行う。 (アカガシラカラスバトほか)
	両生爬虫類館 (ビバリウム)	国内外の両生類・爬虫類を中心に飼育展示するとともにバックヤードでもストックされた希少種の繁殖に取り組む。また、様々なテーマに基づいた特設展示を実施。 (オオサンショウウオ、イリエワニ、ガラパゴスゾウガメ、ロココヒキガエル、オオアナコンダほか)
	子ども動物園	子供たちが動物と身近に親しむことによって、動物に対する興味や自然への理解、生命を大切にする気持ちを育むことを目的に開設された。 在来家畜や身近な動物による様々なプログラムにより来園者への教育普及活動を行う。 (ヤギ、ブタ、ニワトリ、在来家畜ほか)

## 〔2〕多摩動物公園

エリア名	施設名	概要（主な展示動物）
1. アフリカ園	サバンナ放飼場	広い放飼場でアフリカの草原に生息する草食獣、大型鳥類を複合展示する。 (キリン、グレビーシマウマ、シロオリックス、ダチョウ、モモイロペリカンほか)
	ライオン園	昭和39年に世界に先駆けて開発された、バスに乗って放飼場内から間近でライオンを観察できる施設。 約1.5ヘクタールの放飼場にライオンを群れで展示する。
	チーター舎	およそ1,800m <sup>2</sup> の大放飼場やガラス越しに間近に観察できるガラス放飼場でチーターや体の模様が変異したキングチーターを展示し繁殖に取り組む。
	サーバル舎	小型のネコ科動物サーバルを展示。放飼場の天井から肉を吊るしてサーバルがジャンプして捕らえる様子も見せている。
	アフリカゾウ舎	第一、第二の2つの放飼場では水浴や泥浴びする姿や丸太の遊具を鼻で揺するダイナミックな様子を展示する。 さらに、第一放飼場では強化ガラス製の小窓越しに間近に観察ができる展示も行う。 平成24年にはブリーディングローンで新たなオス個体を導入、将来の繁殖を目指す。
	チンパンジー舎	大放飼場内にロープなどの様々な遊具や築山、高木を設け、チンパンジーの動きを立体的に展示している。 また、人工アリ塚やチンパンジー用の自販機・空缶回収機を設置し、類人猿の知能の高さ、道具使用も展示のテーマとする。
	フラミンゴ舎	平成9年より現在の動物舎でフラミンゴ等を飼育。およそ150羽のフラミンゴを展示している。 (ヨーロッパフラミンゴ、アカハシコガモ)
2. アジア園	オランウータン舎	運動場と「飛び地」が、9本のタワーと全長約150mのロープでつながった「スカイウォーク」を設置し、腕わたりしながらオランウータンが移動する行動を

エリア名	施設名	概要（主な展示動物）
		展示する。 平成23年からシロテテナガザルの展示を開始。
	ユキヒョウ舎	中央アジアの山岳地帯の岩場を模して、そこで暮らすユキヒョウを展示するとともに繁殖にも力を入れる。
	ターキン舎	生息地を模した展示場でアジアの希少動物であるゴールデンターキンを展示しながら繁殖に取り組む。
	シフゾウ舎	野生では絶滅した中国産偶蹄類のシフゾウを飼育展示する。
	マレーバク舎	放飼場の屋上を観覧コーナーとしているほか、身近に観察できる屋内展示室では、透明アクリル板を通して水中の生態も展示する。
	アジアの沼地	アジアの水辺に生息する動物を本来の環境に近い形で展示することをテーマとして平成20年度に全面公開した。 希少種のインドサイやカワウソのほかウォークイン・バードケージにおいて鳥類の飼育展示を行う。
	モグラのいえ	長期飼育の難しいモグラ類や、世界最小の哺乳類といわれるトガリネズミ類の展示を行う。 平成21年度よりカワネズミの飼育展示を開始。飼育下繁殖に取り組む。
	アジアの平原	タイリクオオカミやモウコノウマなど、アジアに生息する希少野生動物の群れで行動する自然な姿を展示し、飼育下繁殖に取り組む。
	アジアゾウ舎	3頭のスリランカンゾウを飼育する。 放飼場のプロテクテッドコンタクトウォールを用いて準間接飼育に向けた取組を進めていく。
	さくら広場・なかよし広場	イベントやふれあいの場としての利用等、体験学習・環境学習に活用する。
3. オーストラリア園	コアラ館	コンピューターにより室温・照明等を制御し、オーストラリアの気象条件を再現した展示を行う。 (コアラ、オーストラリアガマガチヨタカほか)
	有袋類展示	アカカンガルー、走鳥類のエミュー等オーストラリア産動物を併せて展示する。 平成24年には新たにシマオイワラビーを導入。
4. 昆虫園	昆虫園本館	国内外昆虫類の生態展示のほか、標本・模型の展示やふれあいコーナーを設けており、昆虫を楽しみながら学べる施設として活用する。 (グローワーム、ハキリアリ、外国産カブトムシ・クワガタほか)
	昆虫生態園	生きている昆虫を周年展示する。特に来園者がその中を散策できる温室部では、林・草原等を再現し、年間を通じて計15,000匹以上の蝶を放ち、展示する。 自然の地形を活かしたホタルの展示・繁殖に向けた取組を推進する。 (オオゴマダラ、トノサマバッタほか)
5. その他	ウォッチングセンター・正門広場	標本等の館内展示のほか、園内案内ビデオや図書コーナー、動物相談コーナーがある。 館内にある動物ホールでは講演会等を開催する。
	育雛舎	野生生物保全センターの活動拠点として、希少鳥類の人工増殖に取り組み、育雛個体等の展示を行う。
	繁殖ケージA	環境省が進めるトキの分散飼育に協力するため、佐渡トキ保護センターから個体を受け入れ、繁殖や研究に取り組む。 ウォッチングセンターでライブカメラによる映像を公開している。(非公開施設)

〔3〕 葛西臨海水族園

エリア名	展示名	概要（主な展示動物）
1. 本館展示	大洋の航海者	外洋性の魚類を展示。2,200トンのドーナツ型大水槽では、主にマグロ類を、サメ水槽では、アカシュモクザメなどのサメ類のほか、イワシの群泳を展示する。（クロマグロ、アカシュモクザメほか）
	世界の海	太平洋、インド洋、大西洋及び両極洋の代表的な海域から生物を収集して展示しており、繁殖生態が解明されていないナーサリーフィッシュや希少種であるリーフィードラゴンなどの産卵・繁殖を目指す。 （ストロベリーアネモネ、ヒカリキンメダイ、メガネモチノウオ、アカツキハギ、ランプフィッシュほか）
	深海の生物	水深150m～1,000mに棲む魚類及び無脊椎動物を展示する。また、東京湾内の深海調査を行い、展示を検討。 （キンメダイ、スポッテッドラットフィッシュ、トリノアシ、ジャイアントアイソポッドほか）
	渚の生物	半分屋外にあり、東京湾口部の岩礁帯を再現。波と潮の干満を再現した波打ち際にはタイドプールがあり、東京湾に生息する生物の生態や行動を展示する。 （タマキビガイ、ボラ、メバル、ゴンズイほか）
	しおだまり	ウニやヒトデ等身近な磯の生物に触れたり、間近に観察したりできるしおだまり水槽がある。 日常的に飼育員や解説員等による解説を行っている。
	ペンギンの生態	波のプールと大きな擬岩からなる陸上の展示場を有した日本最大級のペンギン展示施設。 温帯・極地帯のペンギン類を飼育し、その多様性と生態や行動を展示する。 ペンギン類の繁殖に取り組むほか、オウサマペンギン、イワトビペンギンについては冬季のみ展示。 （フンボルトペンギン、フェアリーペンギン、オウサマペンギン、イワトビペンギン）
	海藻の林	海藻の林と呼ばれる、大型褐藻類のジャイアントケルプを中心とした岩礁地帯を再現し、生息する様々な生物を展示する。 （ストライプトサーフパーチ、ブルーロックフィッシュ、ガリバルディほか無脊椎動物等）
	東京の海	亜熱帯性気候の小笠原諸島に始まり黒潮に洗われる伊豆七島を経て東京湾に至る、「東京の海」の生物を展示する東京湾奥の生物展示、タツノオトシゴの安定繁殖等に取り組む。 （ユウゼン、ウメイロモドキ、テングダイ、アオリイカ、トビハゼほか）
	葛西の海	「東京の海」2階のキャットウォークに、葛西周辺の海に生息する生物を展示する。 （エドハゼ、バンケイガニ、アサリほか）
	海鳥の生態	北半球の寒帯・亜寒帯に分布するウミスズメ科の鳥類を飼育し、水中を羽ばたいて泳ぐ様子を展示する。 （エトピリカ、ウミガラス）
	特設展示場	テーマを決めた特設展示を開催する。生き物の展示を織り交ぜ、展示効果を高めつつ、教育普及効果も高める。
	実験展示・クラゲ水槽	巻き貝による貝の摂餌実験、ウミホタルの発光実験を公開している。 クラゲ水槽では、ポリプ、幼体、成体を展示する。またトピック的な生物の展示を行う。
	レクチャールーム	学校団体向けの特別レクチャーや各種講演会を行うほか、幼児から高校生までの幅広い教育プログラムやイベントを開催。さらに、夏休みや冬休みには、教員研修も実施する。

エリア名	展示名	概要（主な展示動物）
2. 屋外展示	水辺の自然	広い園地を利用して、河川上流部、中流部、平地の池を「溪流」「流れ」「池沼」として再現している。また、「流れ」の下流部を利用し、江戸時代に葛西の水辺に生息していたコウノトリ・タンチョウと、葛西付近でも稀に観察されることがあるクロツラヘラサギを展示する。
3. 予備飼育 (繁殖センター)		展示を支えるため、搬入生物の検疫、餌付け、育成、治療、繁殖等を行う。

#### 〔4〕 井の頭自然文化園

エリア名	施設名	概要（主な展示動物）
1. 動物園	武蔵野ハビタット	本園の中央部にある大放飼場。武蔵野の面影を伝えるアカマツ林の中に、タンチョウ、コウノトリ、ヤクシカ等を放飼する。
	日本産動物展示エリア	カモシカやテン、アナグマ、ハクビシン、キツネやタヌキ等日本産の動物を多く飼育展示する。
	ゾウ舎	国内最高齢のアジアゾウであり、都民に広く親しまれている「はな子」（雌68才）を飼育展示する。
	ヤマネコ舎	ツシマヤマネコとアムールヤマネコを飼育展示する。一部非公開エリアを設け、ツシマヤマネコの繁殖に取り組む。
	野鳥の森	日本の小鳥を集めている和鳥舎とヤマドリ舎からなる。ヤマドリは日本固有の鳥であり、全5亜種のうち4亜種を飼育展示する。
	リスの小径	ウォークスルー形式の展示施設により、貯食行動等ニホンリスの様々な生態を間近に展示する。
	サル山	ニホンザルと近縁で、東アジアからインドに生息するアカゲザルを群れで展示する。
	仮設オオコウモリ舎	取り壊された熱帯鳥温室の動物達を収容するための仮設舎。新たにオオコウモリの飛翔展示に取り組む。
	ペンギン展示仮施設	フンボルトペンギンの泳ぐ姿を展示する。
	モルモットふれあいコーナー	モルモットとの触れ合いを通じながら、生き物の鼓動やぬくもりを感じることができる体感施設として、教育普及活動を行う。
	家畜舎	ヤギ、ニワトリ、ミニブタを飼育して家畜の多様性を展示する。
	いきもの広場	ビオトープの機能を再現し、広場に生息する野生動植物をテーマとして体験型の教育普及活動を行う。
	彫刻園	長崎の平和祈念像で知られる彫刻家・故北村西望の作品を、彫刻館及び園内の雑木林の中に展示する。彫刻館では、コンサート等の文化的イベントも開催する。
	童心居	詩人故野口雨情の書斎を移築し、昭和62年に改築したもの。有料の貸し室として使用する
資料館	動物・植物に関するパネル展示や特設展、体験参加型イベントを実施する。 2階は有料の集会場であり、各種イベントにも活用する。	

エリア名	施設名	概要（主な展示動物）
2. 水生物園	水生物館	<p>主に地元を中心とした関東地方の淡水生物を集め、川の上流から中流域、および止水域における生息分布に応じた種を展示する。</p> <p>また身近な環境保全をテーマとした企画展示も引き続き行う。</p> <p>平成26年度に館内の全面塗装を実施した。合わせて種ラベル、解説パネル類のシステム変更と整備を継続しておこなう。</p> <p>（ミヤコタナゴ、ムサシトミヨ、トウキョウサンショウウオ、ツチガエル、ミズグモ、カイツブリほか）</p>
	水鳥類ほか	<p>各種水鳥舎において日本産の水鳥類を飼育展示し、繁殖を進める。コールダック舎ではふれあい等の教育普及活動を行う。</p> <p>平成26年度に鳥舎全般に鳥インフルエンザ対策工事を実施し、引き続き飼育環境の衛生管理に務める。</p> <p>（オンドリ、カリガネ、タンチョウほか）</p> <p>平成24年度より、身近な水辺の生物の観察を体験できるエリアの整備を進め、平成26年度に「水辺のいきもの広場（仮称）」としてオープンさせ、体験型の教育普及活動を充実させていく。</p>

### 第3 収 益 事 業

恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園においてギフトや飲食品販売等の事業を実施する。事業運営によって得られた収益は、公益目的事業会計に繰り入れ、事業等を通じて都民に還元する。

#### I. 事 業 総 括

事業区分	事業細目		
	園名	種別	箇所数
1. 便益施設等の経営	(1) 恩賜上野動物園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	2
		(3) 臨時売店	1
		(4) 自動販売機コーナー	9
		(5) 写真(映像資料)貸出	1
		(6) ベビーカー貸出所	2
		(7) コインロッカー	1
	(2) 多摩動物公園	(1) 売店	4
		(2) 飲食店	1
		(3) 臨時売店	3
		(4) 自動販売機コーナー	9
		(5) ベビーカー貸出所	1
		(6) コインロッカー	1
(7) ライオンバス		1	
(3) 葛西臨海水族園	(1) 売店	2	
	(2) 飲食店	1	
	(3) 自動販売機コーナー	3	
	(4) コインロッカー	2	
(4) 井の頭自然文化園	(1) 売店	2	
	(2) 自動販売機コーナー	3	
2. その他事業	恩賜上野動物園内広告事業(広告施設10箇所)		
	協賛金募集事業(ジャイアントパンダ保護サポート基金等)		

## Ⅱ. 事業計画

### 〔1〕 便益施設等の経営

#### 【施設名及び収入見込額】

園名	施設名	収入見込額
恩賜上野動物園	1. 1号売店（店名：リトルトランク） 2. 2号売店（店名：カメレオン） 3. 東園中央広場売店（店名：バードソング） 4. 東食売店（猿山前） 5. 飲食店第1号（東園） 6. 飲食店第2号（西園） 7. 臨時売店 8. 自動販売機コーナー 9. ベビーカー貸出所 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. 写真（映像資料）貸出 13. その他	1,585百万円
多摩動物公園	1. 1号売店（コアラ館） 2. 2号売店（ライオン園） 3. 3号売店（店名：コレクション） 4. 4号売店（店名：ズーカフェ） 5. 飲食店（アフリカ園） 6. 臨時売店 7. 自動販売機コーナー 8. ベビーカー貸出所 9. ライオンバス 10. コインロッカー 11. フォトサービス 12. その他	597百万円
葛西臨海水族園	1. 1号売店（店名：アクアマリン） 2. 2号売店（店名：アクアスケープ） 3. 飲食店（店名：シーウインド） 4. 自動販売機コーナー 5. コインロッカー 6. その他	523百万円
井の頭自然文化園	1. 1号売店（店名：はな子カフェ） 2. 2号売店（店名：こもれび） 3. 自動販売機コーナー 4. その他	99百万円
合 計		2,804百万円

## 〔2〕 そ の 他 の 事 業

### 1. 恩賜上野動物園内広告事業

恩賜上野動物園内の広告掲示施設にスポンサーを募り、広告事業を行う。  
収益は、園内の案内誘導サイン等の制作に充てる。

種 別	数 量	設 置 場 所	収入見込額
動物解説ボード	9基	ジャイアントパンダ、ニホンザル、カバ、サイ、ゾウ、ゴリラ、ワシ・タカ、キリン・オカピ、ハシビロコウ	8百万円
環境啓発ボード	1基	モノレール東園駅前	

### 2. ジャイアントパンダ保護サポート基金協賛金募集事業

- (1) 広告掲示等により多数の企業から協賛金を募る、協賛金募集事業を行う。
- (2) 協賛金募集事業で得られる協賛金については、必要経費を除いてジャイアントパンダ保護サポート基金に全額繰り入れる。

協 賛 金 種 別	協賛メディア	収入見込額
ジャイアントパンダ保護サポート基金	広告、ロゴマークライセンス等	10百万円

## 第4 収支予算概要

(単位：千円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 会 計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用収益	1,914	—	3,873	5,787
特定資産運用益	10	—	—	10
受取会費	6,710	—	—	6,710
事業収益	89,098	2,822,230	—	2,911,328
受取寄付金	14,236	—	—	14,236
受取委託料 (※注)	5,407,337	—	192,225	5,599,562
雑収益	6,365	6,430	30	12,825
経常収益計	5,525,670	2,828,660	196,128	8,550,458
(2) 経常費用				
事業費	5,647,918	2,579,073	—	8,226,991
管理費	—	—	288,127	288,127
経常費用計	5,647,918	2,579,073	288,127	8,515,118
当期経常増減額	△122,248	249,587	△91,999	35,340
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	120,000	△207,779	87,779	0
税引前当期一般正味財産額	△2,248	41,808	△4,220	35,340
法人税等	—	14,100	—	14,100
当期一般正味財産増減額	△2,248	27,708	△4,220	21,240
一般正味財産期首残高	262,947	1,121,492	278,399	1,662,839
一般正味財産期末残高	260,699	1,149,200	274,179	1,684,079
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	10,900	0	0	10,900
一般正味財産への振替額	14,236	0	0	14,236
当期指定正味財産増減額	△3,336	0	0	△3,336
指定正味財産期首残高	62,207	0	0	62,207
指定正味財産期末残高	58,871	0	0	58,871
III 正味財産期末残高	319,570	1,149,200	274,179	1,742,949

注：受取委託料5,599,562千円は東京都からの指定管理委託料

## 第5 協会の機構

協会の機構は、議決・監督、執行、諮問、監査及び協力の5つの機関から構成され、その組織及び任務は次のとおりである。

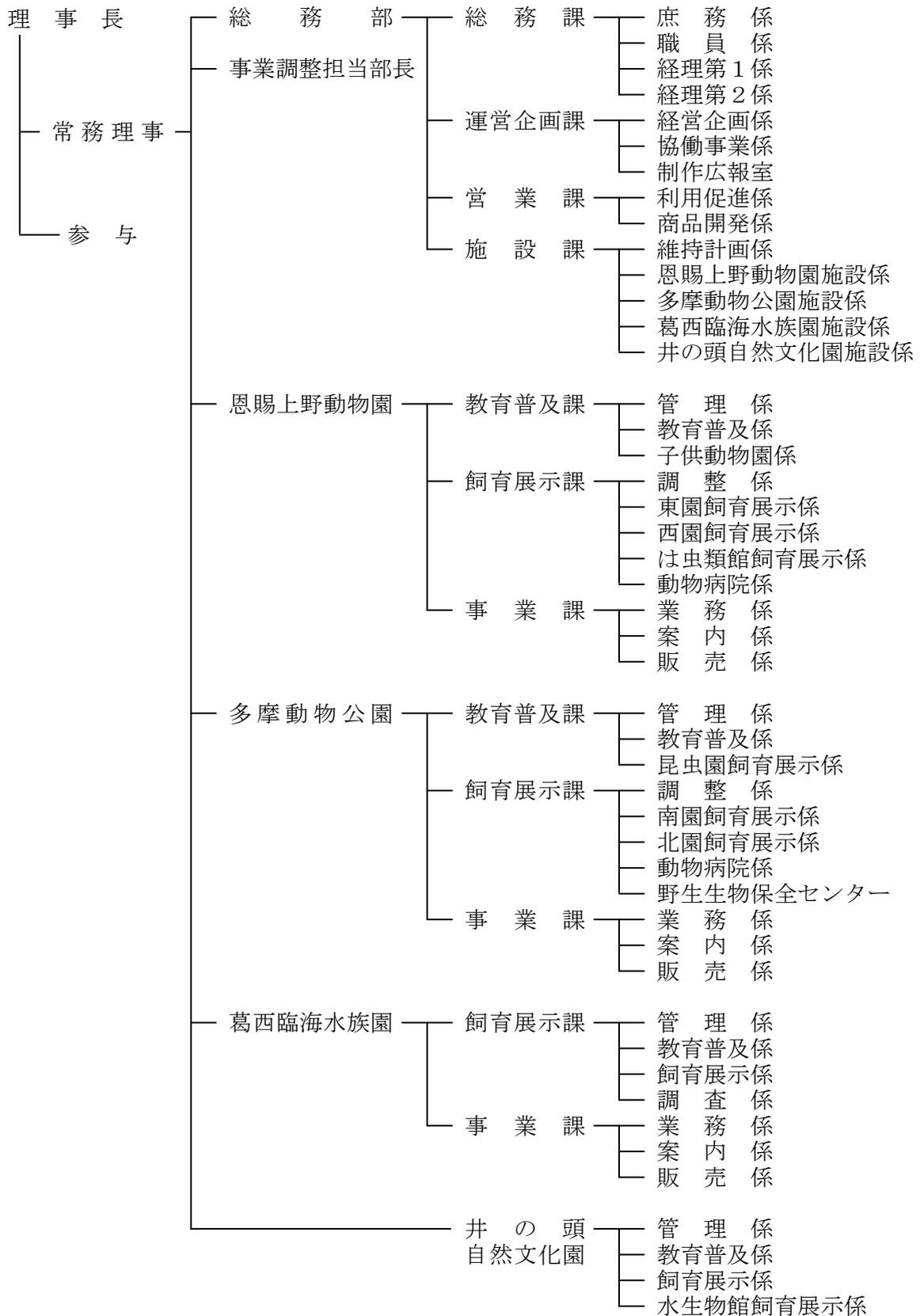
○ 総 裁 常陸宮正仁親王殿下

○ 会 長 貫 洞 哲 夫

○ 機関名称及び任務等

機関名	組織名	任 務 等
1. 議決・ 監督機関	評 議 員 会	理事及び監事の選解任、定款の変更等、協会運営に関する重要な事項を決定するとともに、決算の承認等、理事の業務執行を監督する。
2. 執行機関	理 事 会	事業計画、予算の議決等、本協会の業務執行を決定する。
	理 事 長	本協会を代表し、その業務を執行する。
	常 務 理 事	理事長を補佐し、本協会の業務を分担執行する。
	参 与	理事長が委嘱した特定事項を処理する。
	事 務 局	事務に従事する。
3. 諮問機関	顧 問	理事長の特別な諮問に応える。
4. 監査機関	監 事	業務執行及び財産の状況を監査する。
5. 協力機関	賛 助 会 員	理事会が承認し、規定の会費を納入する者
	特 別 会 員	功労者の中から理事会が推薦した者
	準 会 員	東京動物園友の会会員

【事務局組織】



【事務局職員数】

(人)

固有職員			都派遣職員			合 計		
職 員	嘱託員	計	職 員	再雇用	計	職 員	嘱託員 再雇用	合 計
184	130	314	113	0	113	297	130	427

(平成27年4月1日予定)